

## 整備用スキャンツール「Losso-9」の後継システムとして、 整備の見える化システム「C-MAP(シーマップ)」の提供を開始します。

No. 2013-004

2013年9月17日(火)14:00

HYC 株式会社(本社:東京都三鷹市、代表取締役:吉野 一)は、2013年10月1日(火)より、ロータス九州株式会社(本社:福岡県福岡市、代表取締役社長:桑原 貞造)が現在ロータスクラブ会員向けに提供している整備用スキャンツール「LOSSO-9」の後継システムとして、整備の見える化システム「C-MAP(シーマップ)」の提供を開始します。

「C-MAP(シーマップ)」は、KDDI 株式会社(本社:東京都千代田区、代表取締役社長:田中 孝司)が運営する法人向け SaaS プラットフォーム「KDDI Business Port」で HYC が自動車アフターマーケット事業者向けに販売している「CIR@OBD」、ロータス九州株式会社の監修を受け開発した整備事業者向け部品交換 CRM ソリューション「CIR@部品交換」、整備事業者が行う点検整備の工程を写真で記録する作業工程記録アプリ「CIR@点検整備フォトブック」の三つをパッケージングした、整備事業者向け業務支援ソリューションアプリ群です。

※「KDDI Business Port」に提供している製品は「KDDI Business App NAVI」にて販売しています。

※「KDDI Business App NAVI」の URL : <http://biz-appnavi.kddi.ne.jp/>

※「KDDI Business Port」で提供しているアプリは au に限らず全ての android OS 4.0 端末上で動作します。

ロータス九州株式会社は、2008年10月より3G通信モジュールを内蔵した整備用スキャンツール「LOSSO-9」をロータスクラブ会員に提供し、ロータスクラブ整備工場ネットワークで車種別故障履歴と修理ノウハウのデータベースの構築に取り組んできましたが、

- ・国土交通省による汎用スキャンツール標準仕様の策定によるスキャンツールとしての正当性・発展性
- ・スマートデバイスの急速な進化による専用端末戦略の見直しニーズの高まり

などの点に対する対応が課題となっていました。そこで、目指す方向性が同じでありながら、汎用スキャンツール標準仕様機「デンソーDST-i」と android Pad 端末「Panasonic TOUGH PAD」を Bluetooth で接続し Wi-Fi(又は 3G)でシステムに情報伝達する仕組みを既に実装している当社の「CIR@OBD」が、「LOSSO-9」の後継ソリューションとして採用される頂く運びとなったものです。

「LOSSO-9」のデータベースには、現在 20 万レコードを超えるビッグデータが蓄積されており、「LOSSO-9」専用 web システムにおいて、

- ・型式別故障傾向の表示による整備現場作業の効率化機能
- ・顧客向けに帳票を用いて故障箇所見える化や予防整備の提案などを行う CRM 機能
- ・車両毎、メーカー毎、ECU 毎の過去診断データの閲覧機能
- ・車両毎、メーカー毎、ECU 毎の故障コード検出結果ランキングの閲覧機能

など、日本初の先進的なサービスが提供されています。

<本リリースに関する報道機関様のお問い合わせ先>  
HYC お客様サポートデスク  
e-mail: desk@hyc.mitaka.tokyo.jp

当社では、この度の採用を受け、

- ・「LOSSO-9」のレコードを当社のデータベースからも利用可能となるよう改良
- ・「LOSSO-9」専用 web システムの全機能を継承

等の作業をロータス九州株式会社の協力のもと実施し、「CIR@OBD」において「LOSSO-9」と同等のサービスレベルを既に確保しています。

ロータス九州株式会社の監修を受け開発した整備事業者向け部品交換 CRM ソリューション「CIR@部品交換」は、現場作業者が部品交換の必要ありと判断した劣化部品の写真をアプリで撮影、お客様に写真を示しながら交換理由を説明し交換是非の判断を一緒に行って頂くことで、お客様の部品交換に関する不安や不信感を払しょくする、日本初の部品交換作業の見える化アプリです。

お客様との相談の結果、今回の交換を見送った場合でも、次回交換時期の入った写真つき帳票をお客様に発行することで、「次回来店の予約をその場で行う」「システムに記録されている次回交換時期を目安にお客様にご来店を促す案内を行う」など、顧客囲い込みを実現するマーケティングツールとしてもご利用いただけます。

※ロータス九州では、CRM に Customer and Car Relationship Management という意味を持たせています。

整備事業者が行う点検整備の工程を写真で記録する作業工程記録アプリ「CIR@点検整備フォトブック」には、工程記録機能の他に「CIRシリーズアプリ」のランチャー機能を搭載しており、工程の途中で「CIR@OBD」「CIR@部品交換」起動する際も本アプリの画面上からその他のアプリを起動した場合には本アプリで取得した車両情報を引き継ぐので、アプリ毎に車検証QRコードを読み込む必要がなく、アプリを使った作業の効率が格段にアップします。

以上